

卒業論文

エコカーブームに関する社会学的考察

平成 19 年度入学

文学部人文学科人間科学コース

社会学・地域福祉社会学分野

平成 23 年 1 月提出

## 要約

本論は、エコカーブームについて社会的に考察したものである。環境問題や経済状況の悪化により、自動車にも「エコ」が求められるようになった。現在、ハイブリッド車や電気自動車などのエコカーが自動車市場で人気を集めており、将来的にはすべての自動車をエコカーにするべきだという意見も聞かれる。しかし、エコカーが手放しで歓迎されるものなのかということには疑問が存在する。そもそも、エコカーは本当に「エコ」なのか、また、エコカーの登場によって我々にとっての自動車とはどのような存在へと変化していくのかなど、これまであまり触れられてこなかった点は数多く存在する。本論では、自動車社会の将来を担うとされているエコカーについて、批判的な立場から考察する。

第一章では、二十世紀以降の自動車社会の変遷について述べている。ここでは、フォードによる自動車の大衆化、GM（ゼネラル・モーターズ）による自動車の多様化、そしてエコカーブームの登場というように、大きく三つに分けて流れを追っている。

第二章では、大衆社会において自動車が果たしてきた役割についてまとめた。自動車が我々にもたらしたのものには功罪の両面があると考え、「功」の側面としては移動様式の革新と自己表現の手段が、「罪」の側面としては地球温暖化の深刻化と所有の格差があると考えた。

第三章では、近年のエコカーブームの現状について述べている。エコカーといってもさまざまなものが考えられるが、本論では特に、ハイブリッド車、電気自動車、軽自動車の三つに定義した。さらに、エコカーに関する企業や行政の取り組みについても触れている。

第四章では、エコカーブームの虚構性についてまとめている。まず、第三章で定義した三つのエコカーについて、環境的、経済的両面から本当にエコであるといえるのかどうかを検証した。次に、エコカーの登場による自動車という存在の変化について述べた。ここでは特に、「運転」という概念の変化と自動車が持つ個性の喪失という点から論を展開している。さらに、自動車所有に関する格差の拡大についても述べている。

第五章では、現在のエコカーブームが抱える問題点や矛盾点を踏まえたうえで、真にエコな自動車社会に向けて必要なことは何かということについて考察を行った。すべての自動車をエコカーにする必要はないということ、そして、我々の自動車の利用スタイルを変化させることが必要であるということが考えられる。

## 目次

はじめに	1
<b>第一章 自動車社会の変遷</b>	<b>2</b>
第一節 自動車の登場とフォードの成功	2
第二節 自動車の個性とGM	3
第三節 自動車の「道具化」による「再フォード化」とエコカーブーム	4
<b>第二章 自動車果たしてきた役割</b>	<b>7</b>
第一節 自動車をもたらした「功」	7
(1) 自動車による移動様式の革新	
(2) 自己表現の手段としての自動車	
第二節 自動車をもたらした「罪」	10
(1) 地球温暖化問題の深刻化	
(2) 「持つ者」と「持たざる者」の格差	
<b>第三章 エコカーブームの現状</b>	<b>12</b>
第一節 エコカーブームの到来	12
第二節 エコカーとは	13
(1) ハイブリッド車	
(2) 電気自動車	
(3) 軽自動車	
第三節 社会に広がるエコカー	18
(1) 企業に広がるエコカー	
(2) エコカーブームにおける行政の取り組み	
<b>第四章 エコカーブームの虚構性</b>	<b>21</b>
第一節 エコカーは本当に「エコ」なのか	21
(1) ハイブリッド車	

(2) 電気自動車	
(3) 軽自動車	
第二節 自動車の「白モノ家電化」と個性の喪失	26
(1) 「運転」という概念の変化	
(2) 個性の喪失	
第三節 所有による格差の拡大	29
<b>第五章 真にエコな自動車社会に向けて</b>	<b>32</b>
第一節 すべての自動車をエコカーにする必要はない	32
第二節 自動車の「棲み分け」の必要性	32
おわりに	34
参考文献	35